

教育心理学科の皆さんへ

教育心理学科長 堤 幸一

大学で初めての1年間を振り返ってみて、あなたは入学当初の気持ちを維持して、自分の将来を見据えた地道な努力ができましたか。

「はい」と答えられた人は、そのまま着実に自分を鍛え磨いていってください。もしも「いいえ」と答えないといいないならば、そのままにしてはいけません。大学生生活の4分の1は終わりました。あなたが何もしなくても、時は待ってくれません。

もちろん、入学当初も現在も、自分が将来どうしたらよいのかをまだ明確にできない人、あるいはいろいろ学んで行動する内に、迷ったり最初の気持ちとは違う道を考えてりするようになる人がいても良いのです。そうであっても、いつも前向きに、あなたは将来どうしたいのかを考え続けて、そしてなんらかの行動を始めて、それを残り3年間続けましょと言いたいのです。

さて、迷っている人、目標が定まらない人のために、教育心理学科とは何を学ぶところか、どのような人になって欲しいのかをもう一度確認しておきましょう。

本学科は「心理学を学ぶ」ことが最も大きな目的の学科です。人の心理に興味を持ち、それらについての知識

や研究方法、アプローチするためのスキルを、講義・演習・実習を通じて、しっかりと自分のものにすることを目指してください。これらは興味深い専門知識であるだけでなく、より深く自分自身を知り理解することにも有効です。

また本学科は「支えケアする」役割を担う人を養成することも大きな目的の一つです。この目的に沿うように、養護教諭、特別支援学校教諭、中高教職(保健)の資格課程を持っています。多くの皆さんはこれらの資格取得を希望されていますので、ぜひ教師となって「支えケアする」教育と援助を実践していってください。しかしこの役割は決して特定の職業や専門分野に限定されているわけではなく、そのような姿勢は、広い意味で人間関係を支えて社会へ貢献することになります。どんな職業に就こうとも本学科で学んだことを活かして、それぞれの場所で「支えケアする」人になって欲しいと思っています。

さあ、もう一度気持ちを新たに、自分を見つめ直しましょう。3年後、皆さんがそれぞれの希望を叶えて、巣立っていくことを強く願っています。

村中由紀子先生

心理学概論、発達心理学Ⅰ・Ⅱ、発達心理学特講、家族心理学、心理検査法実習を担当しています。研究分野は、親性の発達・育児支援など、親の立場に立った発達支援を行っています。プレゼミも計画中です。



北川歳昭先生

精神保健、教育相談、教育心理実験実習他を担当。心理学は基礎から応用まで広い領域をカバーし研究法もいろいろ。我が研究史もその特性に沿って…、と言えるかな。自宅では趣味と実益を兼ねて野菜作りに挑戦中。



郷木義子先生

養護教諭の免許資格取得のための講義を担当しています。子どもたちの健康問題解決のためにどんな支援ができるか一緒に考えていきましょう。高梁川と周りの山々がかもし出す自然の風景を楽しみながらのんびりJRで通勤しています。



堤 幸一先生

認定心理士必修の科目群(教育心理、心理統計、心理学研究法、実験実習)を担当しています。心理学を学問として学ぶだけでなく、日常に活かせるような工夫も一緒にやっていきましょう。PCなどデジモノが遊び道具、他に音楽・映画鑑賞などが好きです。



桑原和美先生

子どもの身体活動や表現運動に関する授業を持っています。楽しく身体を動かすことが、心身の健康につながることを理論と実践で学び、子どもたちの教育に役立てようというのが授業の趣旨。旅することが好きなのですが、最近は何とかが(何の?)ないので、音楽を聞きながらストレッチ・ヨガをしてストレス解消!



石山貴章先生

子どもたちと関わる仕事をしたいと考えている学生の皆さんや高校生たちには、豊かな心と感性、そして、十分な知識とそれを幅広く使える実践力を培ってほしいと思っています。チャレンジあるのみ。趣味:登山・映画鑑賞 座右の銘『世の人はわれをなにともゆはざいへ、わがなすことはわれのみぞしる』敬愛する坂本龍馬の言葉。



鈴木 薫先生

養護教諭教育に関する授業を担当しています。保健室の先生の見える仕事、見えない仕事、創造的な仕事について考えています。安い、早い、美味しい食事作りが得意です。



森 宏樹先生

基礎医学系の科目群(微生物学・免疫学・薬理概論)を担当しています。生き物や病気のしくみを少しでも明らかにしたいと思っています。趣味は、旅行とMacいじり、特にアメリカドライブ旅行が大好きです。



教育心理学科
教員紹介

岡田信吾先生

特別支援教育に関する授業を担当しています。様々な障がいのある人が、よりよく学校や社会に参加できるようにするにはどうすればいいかを考えています。趣味は、スキーと釣りですが、最近とんとご無沙汰しています。



山田美穂先生

臨床心理学系の授業を担当しています。「教育者・支援者自身のメンタルヘルス」がテーマです。もう一つは、子育て支援として始めた「親子フラ教室」。お子さんたち、お母さんたち、学生スタッフと一緒に踊ることで、私も元気をもらっています。



下山真衣先生

発達障害や知的障害のある子どもから成人までの支援を考える授業を担当しています。その人らしい生き方をどのように支援できるのか、これまでの研究や社会的な動きを押さえながら、みなさんと考えていきたいと思っています。最近、風景画や人物画を描くようになりました。新しい物の捉え方ができて、面白いです。



岩佐和典先生

認定心理士資格関連の科目、特に臨床心理学の分野を担当しています。心の不調がどんな仕組みで成り立っているのかを理解し、援助に活かすことが目標です。音楽が好きで、ほそぼそですが作曲や演奏を続けています。



医療福祉施設旭川荘見学

—お礼状から—

1年 石井実歩

1年 小野舞子

旭川荘を見学させていただいてありがとうございました。

障害への考え方や態度、曖昧にしか理解できていなかった福祉の意味など、講義を受け、そして実際に見る事で、学び・感じる事がたくさんあった。また、施設での生活を実際に見る事によって障害者施設の様子や支援のための工夫を知ることができた。さらに、障害のある方や支援に関わっている方と接することで、私自身の今までとこれからを考えるきっかけとなった。

今、私は何不自由なく生活している。障害があるということ、日々の生活の中で考える事は少ないし、今のままの生活がずっと続くと思っている。しかし、障害はすぐ身近にあって、誰にでもあることだと今回の見学で実感した。

いただいた資料の中に「福祉は人を幸せにする仕事である、利用者とともに成長していく仕事である、幸せを『分かち合う』仕事である」と書かれているのを目にしたとき、心が温かくなった。私は、人を幸せにできる人になりたいと思った。今回の見学では、児童院と竜ノ口寮を見せていただいた。障害のある方が移動するためのリフトやトイレ、シャワー、食事、車いすなどすべてにおいて、日々の生活が過ごしやすくなるように一人一人に合わせた工夫がされていた。施設の生活は想像していた以上に、生き生きとしており明るい雰囲気だった。利用者の方々の笑顔の写真や活動の中で描かれたドラエモンの絵など、一つ一つの物に意味があり、見ているだけでとても元気づけられた。児童院を案内していただいた際、「一人の時間をどう過ごすかが大事、一人である楽しさを知ること、みんなという時間の楽しさを知ることができる。」と説明をしていただいたことが強く心に残っている。

障害について考えることや障害のある方と接することはとても大切な事だと思った。支援をすることは簡単ではないし、楽でもない。だが、私も支援していきたいという気持ちが強くなった。

お忙しい中、貴重なお時間をとっていただき、ありがとうございました。短い時間でしたが、自分の将来のことや障害についてなど様々なことを考えるきっかけとなりました。これからも障害について、普段から考えていきたいし、ボランティアとして障害のある方を支援していきたいと考えるようになりました。本当にありがとうございました。

見学に行かせていただき、ありがとうございました。旭川荘は以前から訪れてみたいと思っていたので、今回見学に行くことができ、本当に嬉しかったです。勉強になることがたくさんありました。

私は、今まで軽度の障害のある方と交流したことはあるものの、重度心身障害のある方とお会いするのは今回が初めてでした。見学をさせていただいて、一番感じたのは利用者の方が快適に過ごせるようにする工夫があちこちにあったことです。利用者の方は、自分の感情や思っていることを言葉にして伝える事が困難な方が多いようでしたが、職員の方は、文字盤を利用したり、表情から気持ちをくみ取ったりしてコミュニケーションをとられているようでした。これは、私から見ると、大変難しい事をされているように思えました。

児童院と竜ノ口寮の見学をさせていただいたとき、数人の利用者の方とあいさつを交わしました。皆さんが優しく穏やかな顔をされていたのが印象に残っています。利用者の方がそのような顔をされているのは、利用者の生活を支える多くの工夫があるからだと思いました。利用者の方が快適に過ごすにはどうしたらよいか、どのようにしたら充実した一日を過ごすことができるかなど、一人一人の方に最も合った方法を考えている職員の方の姿勢に感動しました。

私は、特別支援学校教諭を目指して勉強しています。まだ知識は浅く、どのような対応をしたらよいかなど全くわからない状態です。しかし、今回の見学で障害のある方と関わる時に最も大切な事は、思いやりの心ではないかと思いました。もちろん、専門知識も必要だと思いますが、障害のある方の表情やちょっとした体の動きから気持ちをくみ取り、思いやりをもって接することが支援する者にとって一番必要な事だと感じました。

旭川荘のモットーである「されていやなことはするな」の言葉は、とても心に響きました。これは、当たり前前の事なのかもしれませんが、それを当たり前前にできる人が思いやりのある人だと思いました。私も大学生の間にそんな人になりたいと思います。また、障害のある人の役に立つことのできる人を目指したいと思いました。

特別支援学校教諭を目指すにあたって、新たな目標を持つことができました。本当にありがとうございました。

研修旅行

1年 齊藤志織

1年 徳田有希



教育心理学科1期生は、神戸に研修旅行に行きました。1日目は神戸市立博物館で古代ギリシャ展の見学をした後、神戸市立青少年科学館を訪れました。夜は、レクリエーションでペアクラスごとにクラス紹介をしたり、レクリエーション係の人が計画してくれたゲームをしたりクラス紹介をしたりしました。クラス紹介は、どのクラスもいろいろと工夫されていて、見応えがありました。それまで話をする機会がなかった人たちとも話をして、仲よくなる事ができました。2日目は北野工房のまちで異人館巡りをしたり、須磨水族園を訪れました。普段学校に居るときには体験することができないことができました。私の中で一番印象に残っているのは、2日目の異人館巡りです。ヨーロッパ3カ国に由来する歴史ある建物や家具を見て、昔の物を残していくすばらしさを改めて感じました。今回の研修旅行を通して、どの人も学科に馴染むことができたのではないかと思います。充実した2日間でした。

4月15日、16日に教育心理学科の神戸研修が行われました。

1日目は、神戸市立博物館、中華街、神戸市立青年科学館に行きました。昼食は、中華街の「華門」でとりました。宿泊は神戸ポートピアホテルでした。ここでは、おいしい夕食の後、クラスアピールとレクリエーションが行われました。どのクラスも、素晴らしい発表でした。

2日目は、北野工房のまち／異人館巡り、須磨水族園を見学しました。異人館巡りでは、オーストリア・オランダ・デンマークの異人館を見学することができました。昼食は、シーバル須磨で食べました。須磨水族園では、イルカショーなど楽しいイベントがたくさんありました。

2日間の神戸研修を通して、学科内の人たちとより仲良くなれたと思います。



教育学部合同運動会

1年 北田優里菜

6月11日に初等教育学科と教育心理学科合同の教育学部運動会に参加しました。これは初等教育学科の2年生の実行委員の方たちが1年生との交流を深めるために開いてくれる場で、今年は教育心理学科も参加させていただきました。運動会ではドッジボールや大縄などに参加しましたが、どの競技でもブロックが一丸となつてとても白熱していました。

1日を通して教育学部らしく楽しい雰囲気の中、先輩後輩や学科の壁を越えて交流を深めることができ、とても楽しい1日となりました。また、実行委員の団結力と運動会を良い物にしようという思い、達成感などを見て、私も来年は実行委員をしたいと思いました。

来年は私たちが先輩となり、1年生に交流の場を開く立場になるので、教育心理学科だけになつても参加者全員が楽しめる会にしたいと思います。





教育学部開設記念 有森先生 特別講義

有森裕子先生の話を聞いて

1年 塚越祐貴

5月18日、バルセロナオリンピックマラソン銀メダリストの有森裕子先生に教育学部開設記念として特別授業を受けた。授業の内容は未来の学校の先生を目指す私達に向けて、どういう先生を目指すべきなのかということについてだった。最初は有森先生の出生当時の状態のことに始まり、どうして陸上競技を始めようとしたのか、高校では部活に入る前に苦労して、その苦労が生涯でとても役にたっていることなど色々な話をしてくださいました。

その中で私達が常に心がけなければならないことを話してくれた。「子供は先生の吐く言葉でいい方にも悪い方にも成長する。」この言葉と有森先生の体験を聞いていく中で私達は生徒を導く存在であることを再認識した。

また有森先生の恩師の方が言った「欠点はおまえにしかない武器」という言葉は、自分に自信が持てない・人とは違うことを気にしている、そんな子供を相手にしていくカウンセラー・養護教諭・特別支援学校教員といった職業を目指す教育心理学科の私たちにとっては、これほど重要で肝に銘じるべき言葉はないと思う。

今回の授業を聞き、みんな目指すべき将来のビジョンがはっきりしたのではないだろうか。

有森裕子先生の特別講義

1年 久保園知香

私にとって、今回の特別講義と、その後に参加した茶話会はとりわけ意義深い物になりました。有森先生の生い立ちや人生観に触れ、そこから私たち教育者になる者に伝えたいメッセージが感じられ、とても勉強になりました。

私がこの特別講義で「すばらしいな」と感じた点はたくさんありますが、特に次の三点が深く心に残りました。

まず、一つ目は、話の中でも何度も出てきた「長所」についてです。有森先生自身が恩師の先生から教えられた「短所を悪いと思うからそれは短所になってしまう。短所もよいことと捉えたら長所になる」という言葉は、大変深い意味があると思いました。小出監督の話にもありましたが、その人が生まれながらに持っている物を良いとか悪いとか決めつけない（否定しない）ことが大事だと私も思います。

二つ目は、「教育し、共育であれ」という言葉についてです。「共育」という言葉には、いろいろな意味が込めら

れていると思います。私が感じたのは、目の前にいる子どもと共に学び共に成長していくというイメージです。子どもを育てるだけでなく、それを通して自分自身も育つ教師、そのような教師が今求められていると感じました。

三つ目は、有森先生の人間性についてです。生まれてすぐ股関節脱臼、優秀な兄とくらべられるばかりの小学校、何一つ記録の残せなかった高校時代の陸上部生活。それでも、くじけず前向きに、粘ってあきらめなかった。日本中を感動させた力は、有森先生自身の人間性と計り知れない努力、これがあったからだと思います。

有森先生が銀メダルを取られた年に私は生まれました。DVDでしかその走りを見たことがありませんが、見る度に感動して涙が出そうになります。有森先生は、自分の弱みや過去の話したくないこともユーモアを交えながら大勢の前でお話しになります。有森先生からは「過去のいろんなことが、今の私につながっている」という前向きな考えが感じられました。

今回、尊敬できる先輩・先生から貴重な時間をいただきありがたく思いました。

有森裕子先生の講演会・茶話会に参加して

1年 萩原夏実

私は平成4年生まれなので、有森先生が活躍されたオリンピックのことをあまり知りませんでした。スポーツ番組で拝見したくらいで、具体的にはどんな成績を残されたのかも知らず、今日の講演会は凄く興味深いものでした。有森先生の意外な生い立ちのお話や、伸び悩んだ高校生時代のお話には、オリンピック選手としてではなく、岡山県民として親近感が湧きました。有森先生も初めは普通の女の子だったのだと、少し勇気が出ました。茶話会では自分がなぜ教師を志そうとしたのかを有森先生に話し、初等教育学科の先輩方のお話も聞くことが出来ました。教師を目指すようになったきっかけも、様々ありとても参考になりました。陸上競技を通して、教師になることに通ずるものがあれば教えてほしいという質問に対し、有森先生は丁寧かつ熱心にお話されました。それは、監督の小出さんのお話です。有森先生は陸上競技をする者として決して優秀ではなく、体も向いている体ではなかったようですが、小出監督には一度も否定されたことはないそうです。激しいO脚についても「立派なO脚だ」と言われたそうで、そう言われるとO脚でも自慢のO脚になったそうです。小出監督はその人のマイナスな部分について否定的なことは一切言わず、別の言葉に変えてお話をしてくれるのだといいます。教師という職業、それも私の目指す養護教諭という職業は、クラス単位ではなく全校生徒の不定多数を相手とします。昨今の教育現場では、いじめ、不登校、モンスターペアレント、虐待など様々な問題を抱えた生徒が大勢います。私が養護教諭となり、生徒たちの心のケアをする際に、マイナスな部分をマイナスと捉えず、プラスに考える方法を教えることで救われる生徒も多いはず。茶話会は短い時間でしたが、有森先生のお話はとても濃い内容でした。貴重な経験をすることが出来て光栄に思います。このような機会を作っていただき、ありがとうございました。

ボランティア体験

ボランティア体験で学んだこと

1年 立分恵

私は、母校の小学校で8月31日～9月22日の平日にボランティアを行った。活動時間は8時～12時30分で、活動内容としては子どもたちの学習活動や学校生活のサポートを行った。9月17日には運動会があり、この日は救護テントで養護教諭の補助をさせていただいた。

今回のボランティアで、教諭と児童の関わりや学校全体の様子を、私自身が小学生だった頃とは違う視点で見ることができたことは、最も有意義な経験であった。また、子どもたちとのふれあいや養護教諭の仕事の補助を通して、理想の養護教諭像や将来どんな保健室を作りたいかという具体的な考えを持つことができた。

今回の経験を踏まえて、今後は養護や教育に関する書籍を自主的に読むなどして多くの知識を蓄えたいと考えている。また大学の先生方と積極的に話をしたり、友人と様々な意見を交換し合うことで自らの考え方をさらに深めていきたい。そして機会があれば再び母校にボランティアに行き、それらを生かしていきたいと思う。

ボランティアに参加して

1年 荻野みゆき

私は、9月12日から16日の5日間、倉敷市立豊洲小学校でボランティア活動をしました。全日、活動時間は、7時45分頃から16時45分頃まででした。3年2組に入り、12日から14日と16日は1日中クラスの子供達と一緒に過ごし、授業中に学習のサポートをしたり、休み時間に一緒に遊んだりしました。昼休みには保健室に行き、養護教諭が仕事をする様子を見て学びました。15日は3年生が社会科見学に行ったため、私は保健室で、養護教諭の子供達への接し方を見て学んだり、養護教諭のお話を伺ったり、10月の保健の掲示物を作成したりしました。

私は、今回のボランティア活動を通して、子供達や先生方からたくさんの事を学びました。子供達の素直さ、優しさ、感じる心など、全て素晴らしかったです。彼らのような子供達の心身の健康をしっかりと守ることができる養護教諭になることを目標に、これからも多くのことを学んでいきたいと思います。

住民一時帰宅に伴う放射能汚染検査に参加して

准教授 森 宏樹

東日本大震災による地震と津波の影響により福島第一原子力発電所の原子炉が破損し、福島県内の広範囲が大気中に放出された莫大な量の放射性物質によって汚染された。原子力発電所から半径20km圏内は警戒区域に設定され、区域内の住民は避難を余儀なくされた。原子力災害対策本部は5月10日より区域内の住民の一時帰宅を実施し、私は薬学部の阿藤寛明先生とともに7月22日から24日まで川内村と広野町で、住民一時帰宅に伴う放射能汚染検査に参加した。



各自の避難場所から中継基地に集まった一時帰宅者の方は、防護服を着用し、用意されたバスで自宅へ向かい、約2時間の滞在時間で家から必要なものを持ち出し、再びバスで中継基地に戻ってきた。中継基地には、東京電力や各電力会社の社員、医療関係者、大学関係者、除染作業を行う自衛隊員など200名近くが配置され、作業を分担した。私たちは、他大学からの派遣者とチームを組み、GM計数管という放射線検出装置で一時帰宅者および持ち帰り品の汚染検査を行った。

7月とあって、防護服を着た状態での汚染検査作業は過酷なものになると予想していたが、直前の台風のため気温も上がらず、作業は比較的楽に実施できた。私たちの担当期間中三日間で、除染が必要と判断された住民の方はいなかった。また、一時帰宅中の放射線被曝量は健康に問題のないレベルであった。

福島県内の警戒区域以外の場所で地面などの放射線量を測定したところ、高い放射線量を検出した。多くの人々がそのような場所で普通の生活を営まれている。放射線による人体への影響が心配だ。健康被害ができるだけ少なくなるような施策が早急に必要であると感じた。





研究紹介

教授 石山貴章 (博士・社会福祉学)



担当科目

特別支援教育の歴史、
特別支援教育総論、
発達障害児教育、他



研究領域／研究テーマ

障害児教育, 障害者福祉・労働

主要著書／論文

- 「知的障害者の就労に関する雇用者の問題意識の構造」
(単著、風間書房、2010年)
- 「特別支援教育における理論と実践の展望」
(分担執筆、培風館、2009年)
- 「キーワードで学ぶ障害児保育入門」
(分担執筆、保育出版社、2008年)
- 「養護学校における”ものづくり”活動の実際」
(障害者問題研究、vol.32,2004年)
- 「特別支援学校生徒に対する“ボランティア体験活動”から
見えてきたもの」
(応用障害心理学研究、vol.10,2011年)
- 「障害者のきょうだいの思いの変容と将来に対する考え方」
(応用障害心理学研究、vol10,2011年)

「特別支援学校教諭を目指す学生の“理想の教師像”に関するイメージ-Personal Attitude Construct (PAC: 個人別態度構造)による分析から見えてきたもの-」
(心理臨床センター、Vol.9,2010)

研究雑感

特別支援学校教員として積み上げてきた実践力と現場を意識した研究活動を通して、日々、様々な場所に足を運び続けています。現場感覚を大切にしながら、そこから浮上してくる現象に対して、根拠のある理論づけを図っていくことが大好きです。これからも、『あるがまま雑草として芽を吹く』(山頭火)がごとく、山あり谷ありのフィールドに対して、積極的に飛び込んでいく姿勢はいつまでも持ち続けていきたいと思っています。また、上記研究活動以外でも、文化人類学や民俗学、社会心理学、歴史探究等が大好きで、時間と暇を見つけては、関心のある土地や人物を巡って歩き回っています。最近では、新たな領域にもチャレンジしており、若い研究者たちと共同で、“ジュニアスポーツの心理-少年野球における子どもたちの心理的成長と葛藤-”についてフィールドワーク調査に挑んでいます。

新任大学教員による、教育心理学科1年目の雑感 講師 岩佐和典

教育心理学科の岩佐です。今年度から就実大学に赴任いたしました。どんな学科になるのだろうか、どんな学生たちが入学してくるのだろうか、そんなことについて様々思いを巡らせながら、岡山にやって参りました。私は昨年度まで茨城県におりましたから、地震がほとんど無いことに、安心半分、違和感半分でありました(それだけ、当時こちらは毎日毎日揺れていたのです)。そして、この安定した気候や瀬戸内海の恵みには、ああ岡山に来て本当に良かった、晴れの国の名は伊達ではなかったと、大変嬉しく感じたものです。と、少しお喋りが過ぎました。

ご存知の通り、本学科は養護教諭、特別支援学校教諭、そして認定心理士の3資格に向けた諸科目を主軸とし、子どもの心身の発達を支えケアする教育的人材の育成を行うものです。私の専門は臨床心理学ですので、本学科の中では特に認定心理士に関係する科目群が私の担当です。学校教諭の教育が中心となるこの学科において、自分はどのような役割をはたすことが出来るだろうかと、試行錯誤の毎日であります。

教員側の考えとしては、養護教諭にも特別支援学校教諭にも、臨床心理学的な考え方や方法、特にカウンセリングや問題の捉え方などですが、そうしたものを身に付けて欲しいという望みがあるわけです。それがどれだけ学生に理解されるか、または、どれだけその重要性を示すことが出来るか、それが私にとっての勝負所であろうと気合いを入れておりましたが、始まってみて、良い意味で拍子抜けをいたしました。

学生は、そんなことは当たり前であると、むしろそうした教育を目当てに此处へやって来たのだと、極めて自然に臨床心理学への興味関心を示したのです。ここで一唸り。それではと、実際に教えてみるわけですが、これがかんがえられない良いセンスをしている。著名な心理療法家の行ったカウンセリングの映像を見せて、その感想を求める。鋭い意見が続出して、もう一唸り。いいやまだまだと、実際にカウンセリング技術の演習を行なってみる。当然未熟ではありますが、技術に対する貪欲さと、演習を楽しむという開かれた態度を目の当たりにして、さらに一唸り。学生たちを4年間である程度までモノに出来なかつたらば、それはこちらの問題であろうと思い直し、今ではどのように学生たちの質を上げていくか、それが私の勝負所となりました。この勝負の結果は、今後4年間における、互いの努力に委ねられております。



大

学

祭



10月22日(土)と23日(日)に大学祭「なでしこ祭」が開催されました。オープンキャンパスも同時開催で、教育心理学科では学生有志が中心となって3つのイベントを企画しました。



「健康チェックコーナー」では、身長体重から聴覚・視覚検査まで健康チェックができるイベントを保健室ボランティア研究会の学生が実施しました。小さなお子さんから大人まで、みんな楽しみながら健康の振り返りが経験できたようです。



学生有志で企画した「みんなで遊ぼう！キッズタイム☆」は、子どもたちが大好きな曲や歌に合わせて一緒に踊り、運動する楽しいイベントでした。赤ちゃんから小学生、お父さん、お母さん、みんなで歌って踊りました。工作も大学生のお兄さんお姉さんに手伝ってもらいながら、子どもたちはみんな笑顔でかわいいおもちゃを作りました。

プレゼミの認知心理学研究会の学生は「錯覚ギャラリー・心理検査体験」を企画しました。錯覚ギャラリーで、お客さんは錯視を見て、驚きの声を上げていました。また、鏡に映った虚像を見ながら迷路を鉛筆でたどる「鏡迷路」を体験し、みなさん楽しんでいました。来年のなでしこ祭でも、学生のみなさんが楽しいイベントを企画して、なでしこ祭を盛り上げてくれると期待しています。



「みんなで遊ぼう！キッズ・タイム」を初企画・参加して

1年 目賀俊平

昨年まで初等教育学科が行っていたオープンキャンパスの子ども向けイベントに、今年スタートしたばかりの教育心理学科も企画を出すことを知り、参加を希望しました。教育心理学科にとっては初企画だったので、なにをどのようにしたらよいかのかわからず、すべて手探りでしたが、学生は皆よりよいものを作ろうと大学祭前日まで話し合いや練習をしました。初等教育学科との合同リハーサルでは、自分たちでは気づかなかった点を先生方に指摘していただき、それらを修正するのとても大変でした。また初等教育学科のリハーサルを見せていただいたときは、自分たちの計画しているものは本当にこれで大丈夫なのだろうか、成功するのだろうかという不安にかられるほど驚きと感動でいっぱいになりました。そして改めて子どもの目線や子どもの行動、思考を考えて計画するという難しさを痛感しました。本番では、子どもたち一人ひとりに気を配りつつ進行することや、子どもとの会話でこちらの思いを伝える難しさを学ぶことができました。来年機会があるのなら、ぜひ今年の経験を活かして、初等教育学科にもひけをとらないすばらしいものを作り上げたいと思っています。



2011 就実大学教育心理学会総会報告

2011年4月25日に本学T館にて、就実大学教育心理学会の総会を開催しました。参加者は、教員と学生を合わせ68名でした。

堤学科長から、就実大学教育心理学会の趣旨説明があり、その後発足の決議により、満場一致でめでたく就実大学教育心理学会が成立いたしました。

同日、就実大学教育心理学会の最初の活動として、就実大学教育学部開設記念式および特別講義について堤学科長から説明があり、学生代表者1名と茶話会参加者2名を選出しました。(4ページをご覧ください)

学会の運営委員を教育心理学科の各クラスから1名選出し、今後は運営委員会を中心に、教育心理学科の学生にも積極的に参加してもらう予定です。活動内容について学生皆さんのアイデアを募集します。

岡山心理学会第59回大会と公開講演会



岡山心理学会第59回大会が平成23年12月17日(土)に本学で開催されました(就実大学教育心理学会協賛)。教育心理学科の教員と学生が中心となった実行スタッフの懸命な運営で無事終了しました。ポスター形式の研究発表36件のうち、3件は本学科教員の発表でした。数年後の学会には本学科学生も発表者の一員となっているかなと夢見ました。招待講演(一般公開・無料)では、心療内科・精神科医師の高田広之進先生(たかたクリニック院長)が「心を育てる子育て—精神科医からの提言—」と題して、ご自身の幼少期からの生育過程や豊富な臨床経験を踏まえた子育て論を展開されました(参加者110人)。感想アンケートには、「先生のお考えが本当に普通の、当たり前視点に立ったものであり、だからこそ、改めて普通の当たり前の大切さを実感しました」(一般、30代男性)、「家庭の役割を見直し、目の輝く子供たちを育てていきたいなと思います。ありがとうございますま

した」(一般、30代女性)、「『むだなケンカをしないうこと』は、職場の職員間のことでも通じることだなと思いました」(一般、20代女性)などがありました。プログラム終了後、学生会館地下食堂で会員相互の親睦とスタッフの慰労を兼ねた懇親会がありました。

(実行委員長 北川歳昭)



キャリア支援

＜キャリア支援講演会＞

2011年6月29日実施。講師に岡山県教育庁教職員課参事、鍵本芳明先生をお迎えし、「岡山県の求める教員像と教員採用候補者選考試験」と題して、「よい先生になるために大切なこと」をお話いただきました。



＜採用試験自主勉強会＞

校内で自主勉強会をしています。内容は、6月に購入した採用試験の問題集についてです。今のところ、教員からの呼びかけで集まっていますが、少しずつ学生の皆さんの自主的な活動にしていきたいと考えています。



＜一般教養模擬試験＞

初等教育学科との合同事業として、2011年11月26日実施。ほとんどの学生が受験しました。

本学科生を対象とする模擬試験は、2012年5月に希望者、2012年11月に全員を対象として実施します。意欲も新たにがんばっていきましょう!



教育心理学科

行事報告

4/1	入学式	
4/15-16	研修旅行(神戸)	
4/25	就実大学教育心理学会総会	
5/18	教育学部開設記念 有森先生特別講義	
6/11	教育学部合同運動会	
6/26	オープンキャンパス	
7/6	旭川荘見学	
7/23-24,8/21	オープンキャンパス	
9/17	教育懇談会	
10/22-23	大学祭	
11/26	一般教養模擬試験	
12/17	岡山心理学会第59回大会開催	

編集後記

「教育心理学科 学科報 tea time」第1号をお届けします。紙面を通じて、今年度より開設された、教育心理学科の雰囲気や少しでも伝われば幸いです。次号からは、学生編集委員も参加し、教育心理学科の「今」が伝わる紙面にしていけるよう努力したいと考えております。今後ともよろしくお願い致します。(信)

教員編集委員 森 宏樹、岡田信吾